

## 第2回オープンサイエンスデータ推進ワークショップ － 研究データの保存と公開 －

### プログラム

日時： 2015年12月7日(月) 13:00 - 17:30 (懇親会：18:00-20:00)

12月8日(火) 10:00 - 16:30

場所： 京都大学理学研究科セミナーハウス

([http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_n.html](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html) 中の建物番号10番)

(注) 参加講演申し込みは既に締め切っておりますが、当日ご参加も歓迎です。

なお、申し込みなかったけれど、やはり、懇親会(会費4300円)にも参加していただける方は、

12月1日までに武内([noritake@kugi.kyoto-u.ac.jp](mailto:noritake@kugi.kyoto-u.ac.jp))にご連絡願います。

- ・(\*)印は招待講演 30分 (講演25分+質疑応答5分)
  - ・それ以外は 20分(講演15分+質疑応答5分)
- を目安でお願いいたします。

#### 12月7日(月)

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 12:00－          | 受付開始  |
| 13:00－13:10     | 趣旨説明・他  |
| 13:10－13:30     | オープンサイエンスとデータ共有の最近の動向について<br>村山 泰啓 (情報通信研究機構)   |
| 13:30－14:00 (*) | WDS Publishing Data: the Building Blocks<br>Mustapha Mokrane (World Data System-<br>International Programme Office)   |
| 14:00－14:30 (*) | 産業技術総合研究所におけるオープンデータの現状と方向<br>小島 功 (産業技術総合研究所)  |
| 14:30－14:50     | 休憩  |
| 14:50－15:20(*)  | 研究データマネジメントのための情報環境整備<br>梶田 将司 (京大・学術情報メディアセンター)  |
| 15:20－15:50(*)  | リポジトリソフトウェアWEKOの活用事例とオープンサイエンスへの展開<br>山地 一禎 (国立情報学研究所)  |
| 15:50－16:20(*)  | From Project Related Data Management to Sustainable Data<br>and Knowledge Services - Berlin Declaration on Open Access<br>to Knowledge in the Sciences and Humanities -<br>Bernd Ritschel (GFZ Potsdam) |
| 16:20－16:40     | 分野を越えたデータ利用における実践的体験<br>渡邊 堯 (ICSU WDS-IPO)   |
| 16:40－17:00     | オープンサイエンスのジレンマ～研究者共同体のインセンティブと<br>結果オープン性へのモチベーション～<br>北本 朝展 (国立情報学研究所)   |
| 17:00－17:30     | コメントと補足   |

林 和弘 (科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター)

18:00-20:00 懇親会 (北部生協2階)

**12月8日(火)**

- 09:30- 受付開始
- 10:00-10:10 本日の予定・他
- 10:10-10:40(\*) オープンデータによる学術のアンラーニング  
岩田 修一 (事業構想大学院大学)
- 10:40-11:10(\*) 研究データ管理: 図書館ができること・すべきこと  
大園 隼彦 (岡山大学)
- 11:10-11:30 休憩
- 11:30-11:50 データジャーナルでリポジトリを繋ぐ: 極地研での検討状況紹介  
南山 泰之 (国立極地研究所)
- 11:50-12:10 電離圏全電子数データベースを例とした研究者グループによる  
研究データの公開・維持について  
齊藤 昭則 (京大・理)
- 12:10-12:30 オープンイノベーションへの期待  
岡山 将也 (日立コンサルティング)
- 12:30-12:50 伊能忠敬の国宝磁針測量方位角帳「山島方位記」の市民開始の文理学際融合  
解析の現実 -地磁気・歴史地理での Open Science-  
辻本 元博 (日本地理学会員)
- 12:50-13:40 昼食
- 13:40-14:10(\*) データサイテーションマイニングによる科学データの利活用分析 (仮題)  
是津 耕司 (情報通信研究機構)
- 14:10-14:30 分野を超えた協働支援環境ubiDIAS  
西村 一 (海洋研究開発機構)
- 14:30-14:50 防災研究所附属地震予知研究センターの地震・地殻変動観測データ  
加納 靖之 (京大・防災研)
- 14:50-15:10 休憩
- 15:10-15:30 IUGONETの活動によるデータ公開と利活用の状況の変化  
梅村 宜生 (名大・ISEE)
- 15:30-15:50 地球研アーカイブズの現状と課題:  
学際・プロジェクト研究成果の収集・公開・利活用  
安富 奈津子 (総合地球環境学研究所)
- 15:50-16:10 研究室あるいは研究者個人レベルのデータセットの保存と公開  
家森俊彦 (京大・理)
- 16:10-16:30 総合討論・他

(終了)

---

主催： 京都大学理学研究科附属地磁気世界資料解析センター  
(ICSU-World Data System メンバー)  
共催： 京都大学学際融合教育研究推進センター  
ICSU-World Data System (国際科学会議-世界科学データシステム)  
京都大学宇宙総合学研究ユニット  
ワークショップ世話人： 家森俊彦・能勢正仁 (京都大学理学研究科)  
(問い合わせ先メールアドレス：[iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp](mailto:iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp))

趣旨： 京都大学ではこの9月から、学位論文も含め、科学研究の成果の基礎となったデータを原則として10年間以上保存することがルール化された。既に同様な決まりが実施されている機関もあれば、近々制定される大学・研究機関も多数あると推測される。研究データをどのように保存すべきかは、個々の研究者・研究室にとっては今後悩ましい問題になる可能性が高い。しかし、研究データの保存だけではなく、適切な形での公開とセットにすることにより、積極的な活用の可能性もある。

9月に行った初回のこのワークショップでは、オープンサイエンス、オープンデータについての状況、意義、問題点などを一般的かつ広い視点からご講演をいただき、それを基に議論するとともに、複数のデータベースを統合的に取り扱うためのシステム開発や、データベースに識別子(具体的にはDOI: Digital Object Identifier)を付与し、論文でデータ引用を行う動きと我が国に於ける進捗状況などが報告された。

今回は、現実の問題となりつつある研究データの保存と公開の諸問題とその解決方法、保存データの有効活用などにある程度の絞りを、具体的取り組みの紹介も含めた情報交換と議論を行う。

---